

令和4年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
自己肯定感アップキャンプ

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

自然の中でのグループ活動を通して異学年の仲間と主体的に関わり、4年生は3年時の経験を活かしながらリーダーシップを発揮したり、3年生は自然の中での体験活動を通して自信をつけたりすることで、それぞれの自己肯定感を高める。

2. 事業の概要

（1）期日

令和4年10月20日（木）・10月21日（金）日帰り2日間
（新型コロナウイルス感染症防止のため、1泊2日を日帰り2日間に変更）

（2）参加者

吉備中央町立津賀小学校・円城小学校・御北小学校（3校連合）
小学校3年生15人 4年生26人 計41人

（3）企画・運営のポイント

- ① 上学年の児童が昨年度の経験を生かして下学年の児童にリーダーシップが発揮できるように、2学年合同を対象とした。
- ② 小学校5年生は宿泊研修（「海の学習」）、6年生は修学旅行と宿泊行事があるため、また自己肯定感は早期に高めた方が望ましいと考えたため、3・4年生に設定した。
- ③ アイスブレイクに始まり、課題解決ゲームを多く取り入れ、チーム力の向上を体感したり、他者理解を深めたりできるように、KAP（吉備プロジェクトアドベンチャー）を3時間で計画し、重点化を図った。
- ④ 遊びリンピックやウォークラリーなどを、課題解決（目標設定をし、挑戦し、課題を話し合いながら達成していく）の流れにアレンジして、自己肯定感が上がるようにした。
- ⑤ 活動中は自分や友達の良さを振り返る機会を多く設け、キラリシートにまとめて、視覚的に分かりやすくした。
- ⑥ 事前・事後でのアンケート調査を行うことで、自己肯定感の変容を明らかにした。（「4. アンケート調査について」参照）

3. 活動の内容等

(1) 日程

	10月20日(木)		10月21日(金)
8:45	各小学校を出発	9:15	入所
9:30	入所式	9:30	遊びリンピック
10:00	KAP①(仲間づくりゲーム)	11:00	野外炊事(ポリ袋炊飯カレー)
12:00	昼食(レストラン)	13:00	振り返り
13:00	KAP②(仲間づくりゲーム)	14:00	退所式
14:00	課題解決型ウォークラリー (荒天時:館内オリエンテーリング)	14:30	各小学校へ出発
17:00	退所		

(2) 活動の状況



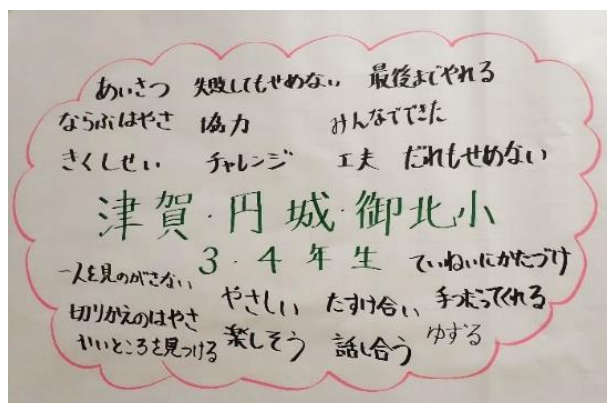
【KAP(パイプライン)】



【課題解決型ウォークラリー(ミッション)】



【遊びリンピック(カプラ積み)】



【振り返り(キラリシート)】

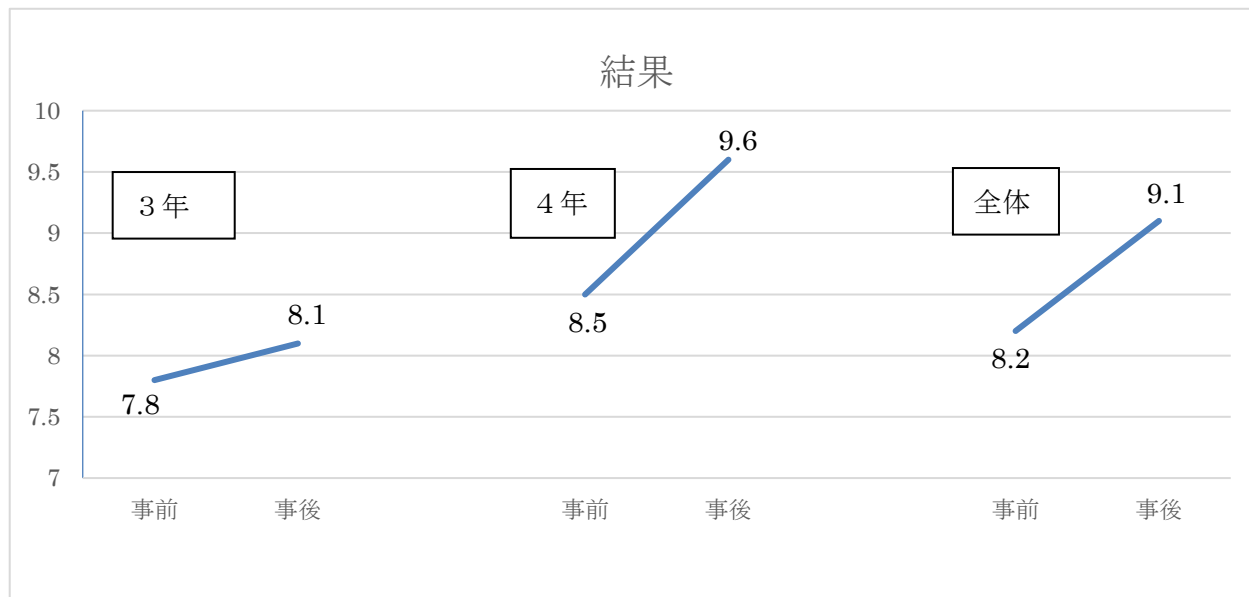
4. アンケート調査について

(1) 調査項目

- ① 自然とふれあうことが好きだ。
1 全然思わない 2 あまり思わない 3 少し思う 4 とても思う
- ② 今の自分が好きだ。
1 全然思わない 2 あまり思わない 3 少し思う 4 とても思う
- ③ 自分には良いところがある。
1 全然思わない 2 あまり思わない 3 少し思う 4 とても思う
- ④ 人の役に立っている。
1 全然思わない 2 あまり思わない 3 少し思う 4 とても思う
- ⑤ 友だちと協力することができる。
1 全然思わない 2 あまり思わない 3 少し思う 4 とても思う
- ⑥ 新しいことに挑戦することが好きだ。
1 全然思わない 2 あまり思わない 3 少し思う 4 とても思う
- ⑦ 「自己肯定感アップキャンプ」で楽しみなことはどれか。
1 仲間づくりゲーム (KAP) 2 課題解決型ウォークラリー
3 遊びリンピック 4 野外炊事 (ポリ袋炊飯カレー)

(2) 調査結果

自己肯定感として②～④の3項目の合計点を分析 (4点×3項目=12点満点)



5. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

①児童

- ア. KAP（仲間づくりゲーム）でみんなと話したり、遊んだりしているうちに、「あっ！ここが私のいいところかも！？」と自分のいいところを見つけられた。
- イ. 元々自分が好きだったけど、山の学習で友達を作れた自分がもっと好きになった。
- ウ. やる前は不安なことがたくさんあったけど、山の学習を体験すると、不安なことは消えた。

②教員

- ア. 3時間のKAPからの課題解決型ウォークラリーの流れは、多岐に渡って心の面まで親交を深めることができてよかった。
- イ. 個人やグループ、友達の良さを言葉として出させ、見える化したことでフィードバックしやすかった。

(3) 成果

- ① 事前と事後でアンケートをとったところ、どの項目も事後に伸びが見られた。特に4年生の伸びが大きく、目的が達成された。
- ② 3時間のKAPをしたことで、内容も充実することができた。KAPの振り返りでは、カードを使って自分の気持ちを表しやすくしたことで、自身の内面の変化にも触れることができた。
- ③ 各活動ごとに振り返りの時間を設けて、自分や友達の良いところを共有し、キラリシートに随時書き込んだことで、見える化されて、より意識を高めることができた。

(4) 今後の課題

- ① 新型コロナウイルス感染症防止のため、宿泊を取りやめて日帰りに変更して実施したが、来年度は宿泊として、その効果を高めていく。
- ② 研修支援事業として、岡山県内や近隣県に普及できるように、パッケージ化や効果の提示をしていく。
- ③ 自己肯定感を高めるのに、KAPを3時間するのはとても有効な手立てではあるが、研修支援としたときに団体への金銭面での負担が大きくなるため、躊躇される場合も考えられる。そのため、KAPの効果や中身を団体へ伝えていく必要がある。また、よりよい効果が得られるように職員研修を重ねていく。

担当：企画指導専門職 藤本 昌克